

学校だより 2月号



寺尾小だより



＜学校教育目標＞「自ら進んで 学ぶ子 仲よくする子 きたえる子」

＜2月の生活目標＞「手洗い、うがいをしっかりしよう」

川越市立寺尾小学校

令和3年1月29日（金）

川越市寺尾979-2 TEL 049-245-9555 FAX 049-240-1765 E-mail:teraosho@city.kawagoe.saitama.jp

プラス思考のススメ～ピンチをチャンスに～

校長 長澤 誠

2月2日は節分、3日は立春、暦の上では春の訪れを迎え、校庭の木々も開花の機会を待ち望んでいるようです。「節分」とは、季節の変わり目を意味しています。昔は、立春・立夏・立秋・立冬という季節の始まりの日の前日を節分と呼んでいたそうです。現在では、冬から春になる立春の前日だけが節分として残りました。立春は、1年の始まりと考えられ、立春の1日前の節分が現在の大晦日にあたります。悪いものを追い出して、すばらしい春を迎えるために春の節分だけが行事として残ったと言われています。

さて、今月は**プラス思考**の話題です。人には、それぞれピンチとを感じる場面が数多くあります。当然ながら失敗も数多くしますので、それが原因によるピンチも数多くあります。皆さんも経験があるかと思います。大切なことは、その失敗やピンチを「もうだめだ!」「立ち上がれない!」と**ネガティブに捉えるのではなく**、「切り抜けるために、こうしよう!」「この方法なら回避できるぞ!」と**ポジティブに捉えて**、むしろ新たなことを生み出すチャンスにする（しようとする）ことだと思います。このことをプラス思考といいます。

現在、川越市内でも新型コロナウイルスが猛威を奮っています。対策を取っていたとしても、誰もが罹患する可能性があるのです。この状況は社会にとって大きな「ピンチ」です。この状況を「チャンス」に変えるため、知恵とアイデアを絞りながら様々な取組をしているのが現状です。社会では、テレワークや時短営業、終電時刻繰り上げ等、学校では、行事見直しや授業改善、今後導入されるタブレット端末の活用などが挙げられます。

一方、コロナ禍で生まれた差別や偏見を防ぎ、たとえウイルスに感染してしまっても地域や学校の中で笑顔の生活を取り戻せるという考えの「シトラスリボンプロジェクト」があります。愛媛県で始まったこの活動は、一時的に治療のために離れても、戻ってきたときには「ただいま」「おかえり」とお互いが言い合え、お互いが受け止める雰囲気醸成しようという活動です。**誰もが罹患し得るピンチを、お互いの絆を深めるチャンスにしようと考えているのではないのでしょうか。**

差別や偏見を持ち「誰が悪い」とか「誰のせいだ」と責めるのではなく、シトラスリボンプロジェクトのように、この地域が**誰にとっても暮らしやすい場になってほしい**と願うとともに、**子供達にとって生活しやすい寺尾小を目指して**いきます。

寺尾小では毎月20日を「ていねいな言葉の日」と設定し、心温まる言葉遣いを意識して過ごすことに取り組んでいます。たくさんの「ほんわか言葉」が集まっています。御来校の際は、御覧になってください（5月号参照）。これからも訪れる様々なピンチを、**プラス思考でチャンスに変えて**いきたいものです。引き続き御理解と御協力をよろしく願いいたします。

ただいま、おかえりって言いあえるまじに
みんなで広げよう、シトラスリボンプロジェクト。

